



女性県議3人で街頭に立つ

長かった梅雨もやっと明けて、途端に猛暑の夏がやってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスは猛暑の中でも衰える気配がありません。先日は高校の寮でクラスターが発生し、一挙に100人を超えてしまいました。まだまだ長い付き合いになると思いますが、お互いに日常の「手洗い、うがい、マスク着用」に心がけて、自分と周りの人の健康を守って生活しましょう。

健康に留意する生活を心がけて

残暑お見舞い申し上げます

県議会議員はくいし恵子の

風だより



発行者 島根県議会議員
はくいし恵子
2020年9月1日発行
拡大版 VOL.28

女性都道府県議会議員の会 in 島根 8月4日~6日

都道府県議会の女性議員比率は総じて低く、平均11.1%です。一番高い東京が30.3%、島根県は8.1%、主張したいパリティ(半数を女性)には遠く及びません。この会は党派を超えて女性議員が学びあい、力を合わせて頑張っていく基盤になればと立ち上げられた会です。

この会が党派を超えて女性議員が学びあい、力を合わせて頑張っていく基盤になればと立ち上げられた会です。事務局には全国の数人の女性議員が担っていて、今まで東京や滋賀で開催されました。前回東京で開催された折、次回島根県での開催を引き受けました。そこで8月4、5日松江での座学、5日午後から6日にかけて海士町での視察研修という計画を立てました。

ところがその後、新型コロナウイルスがあり、開催できるのかと危ぶんでいましたが、5月末緊急事態宣言が解除され、県をまたいでの往来ができるようになり、開催に向けて動き出しました。しかし再び感染数が増えだし、心配しましたが島根県としては、県外者を受け入れないという姿勢は打ち出されなかったこともあってしっかりと感染防止対策を取った上で開催に踏み切りました。参加者16人(海士町は10人)という少人数でしたが、その分密度の濃い研修になったと思います。

また、是非とも聞きたいという希望にこたえ、zoomでの発信も取り入れました。「過疎という言葉が生まれた島根の取り組み」と題したプログラムは以下の通りです。

◆島根が誇る4人の講師
①岩本 悠さん 島根県高校魅力化特命官
海士町「県立島前高校」を舞台に、島留学により県外の生徒を増やし、廃校寸前の高校を立てなおした。今、全県でその取
②藤山 浩さん 持続可能な地域社会総合研究所所長
元島根県中山間地域研究センター研究員
「田園回帰1%戦略」「小さな拠点をつくる」「循環型経済をつくる」等多数
③田中 輝美さん ローカルジャーナリスト
地域で暮らし、地域からの発信を続ける
「未来を変えた島の学校」「地域で働く「風の人」という新しい選択」「ローカル鉄道という希望」「関係人口をつくる」等多数
④寺本 英仁さん 邑南町職員
食による地域おこし(A級グルメの町づくり)の立役者
「ビレッジプライド」仕事人。0円起業の町を作った



公務員の物語(号室ブックオフサイヤ)地方部門大賞受賞)というこれ以上ない、島根の誇る4人の講師を迎えることができました。4人も全国的に名を知られていることもあって、内容の深い研修となりました。皆さんからも毎回時間オーバーする多彩な質問が出て、そのやり取りも聞いていて大変勉強になりました。私は全員を以前からよく知っているのですが、今回改めてそれぞれの活動が深化し、名実ともに島根のみならず全国を引っ張る存在になっていくことを実感しました。

◆海士町の挑戦
海士町では、港に着くと町長以下たくさんのお出迎えを受け、「島食の寺子屋」の先生と生徒さんによる、島の食材を使った素晴らしいお料理をいただきました。(もちろんノンアルコール) コロナ対策としてテラス席の宴会場には町議会の議長さんもおいでいただき、また「ターンして島で働いている女性たちが同席され、有意義な意見交換の時間となりました。翌日は、濱中人づくり担当課長による「ないものはなく離島からの挑戦」と題する海士町の取り組みの歴史、柏谷交流促進課長(ホテル魅力化特命担当)の島宿で外貨を稼ぐために、ビジネスに特化したB&Bを立ち上げ、インバウンド客をターゲットにマリノポートホテル海士の改修とジオパーク拠点施設を造り、民宿では特徴を生かした濃密なサービスを提供するというそれぞれの特徴を生かした宿泊構想を聞かせてもらいました。そして隠岐乃國学習センターの豊田センター長から島前高校と一体となった学習支援と「夢ゼミ」の話、場所を移して美味しい隠岐牛のお弁当をいただいた後、中央図書館で磯谷司書から「島まるごと図書館構想」について伺いました。フェリーが島を離れる時、町長、副町長、議長、お話をしてくださった皆さんから大きく手を振って見送られながら、頭も心もお腹も大満足の海士町視察を終えました。田舎、過疎地と言われるながらも頑張っている島根の魅力が、参加された皆さんにきくと伝わったと思います。私自身も改めて海士町をはじめ、県内の様々な取り組みが深化し続けていることを実感した研修でした。

はくいし事務所
〒690-0882 松江市大輪町414-12
TEL・FAX 0852-23-0880
HPアドレス http://www.hakuishi.sakura.ne.jp/index.html
※是非、お立寄りください。



命担当)の島宿で外貨を稼ぐために、ビジネスに特化したB&Bを立ち上げ、インバウンド客をターゲットにマリノポートホテル海士の改修とジオパーク拠点施設を造り、民宿では特徴を生かした濃密なサービスを提供するというそれぞれの特徴を生かした宿泊構想を聞かせてもらいました。そして隠岐乃國学習センターの豊田センター長から島前高校と一体となった学習支援と「夢ゼミ」の話、場所を移して美味しい隠岐牛のお弁当をいただいた後、中央図書館で磯谷司書から「島まるごと図書館構想」について伺いました。フェリーが島を離れる時、町長、副町長、議長、お話をしてくださった皆さんから大きく手を振って見送られながら、頭も心もお腹も大満足の海士町視察を終えました。田舎、過疎地と言われるながらも頑張っている島根の魅力が、参加された皆さんにきくと伝わったと思います。私自身も改めて海士町をはじめ、県内の様々な取り組みが深化し続けていることを実感した研修でした。

はくいし恵子の県議会報告

2月県議会

代表質問から抜粋 (2/16~3/17)



島根を守り発展させるため

20年2月議会が2月16日から3月17日まで開催されました。後半、新型コロナウイルス感染症対策として、国から突然学校の休業要請が出されましたが、島根県は全国で唯一「県内発生まで休業しない」としました。議会終了後の4月9日、1例目が発生し、拡大していますが、今のところ市中感染を防ぐことに成功しています。今後も増加することが見込まれる中、予防を徹底したいと思っています。

島根の価値観の転換を

質問・県政に対する知事の思いについて

(1) 知事が感じる島の強み、弱みとそれをどう生かすのか、またリーダーとしての覚悟を伺う。

【知事】生活を支える人と人とのきずなの強さが強み。弱みは暗い印象。弱みは強みに転換し、工夫しながら「人口減少に歯止めをかける」目標に現場主義と県民目線で、全力で取り組む。必要であれば国にもきちんとものを言うていく。

【知事】懸命に取り組まれている市町村に対し、県として支援できることは最大限支援していく。また県庁内での問題意識を共有し、ポトムアップとトップダウンを組み合わせたながらオール県庁で取り組む。

質問・人口減少に打ち勝つという意味は

(1) 今後も人口は減少していく中で、経済成長ではなく今までと違う幸せを感じるという価値観の転換も含むと思うが如何。

し、笑顔あふれる島根を目指す。

質問・若者の流出を止めることについて

(1) 大人こそが島根の魅力や可能性に気づき、考えを変える必要があると思うが。



子どもの育ちに支援を

質問・子どもの健やかな育ちを支援することについて

(1) 県の幼児教育に「自然保育」の有用性を位置づけ、推進して欲しいが如何。

【教育長】策定中の島根県幼児教育振興プログラムの中に自然保育の意義を盛り込む。

(2) 小中高でも、自ら学ぶ意欲を引き出す教育に転換する考えは。

【教育長】授業改善の研究

【知事】都会の魅力だけでなく、厳しさも伝えると同時に、島根の良さを大人がしっかりと認識して両面を子どもに伝えていくことが必要だと思ふ。

(2) 島根の将来像、ポテンシャルなど踏み込んだメッセージを届ける考えは。

【知事】島根でしかできない自己実現や島根でしかできない暮らしについてきちんと伝えていかないとけないと思ふ。

質問・女性が生き生きと暮らせる島根づくりについて

(1) 女性100人会議の実績を踏まえ、もっと多様な女性の声を聴く気持ちはあるか。

【知事】来年度も、今年伺ったことを更に深掘りしていききたい分野や、今年は何もなかった分野について実情や意見を伺いたい。

(2) 県の女性管理職を将来的に30%にするという高い目標を持つてほしいが如何。

【知事】直ちには難しいが、目標を1年前倒しして改定し、新たな目標を設定していく。また環境づくりや育成的な人事配置、研修を実施し、割合を高めるよう取り組む。

(3) 企業に対しても管理的な職に就く女性を増やし、県と同様の高い目標を持つことは可能かと思うが如何。

【知事】官民一体で取り組んでいるしまね働く女性きらめき指数を基本として目標達成に取り組んでいく。

(4) 医療的ケア児、発達障がい児の支援の充実をどう進めていくのか。

【健康福祉部長】医療的ケア児支援のための協議会での議論を踏まえ、コーディネート・養成研修、ガイドブックの作成に着手。発達障がい児支援では、かかりつけ医研修、支援センターへの心理職の配置により、早期診断と早期支援への取り組みを強化する。

質問・これからのエネルギーについて

(1) 地域エネルギーの取り組みが始まっているが、県としてどう考えるか。

【知事】奥出雲町ですでに取り組まれているが、さらに市町村と連携・協働して地域資源を有効活用した再生可能エネルギー導入促進に取り組む。

質問・小さな拠点づくりに

【知事】拠点づくりに取り組むにあたっての様々なプロセスが、次に続く地域のモデルになると思ふ。

(2) 進んでいない地域にどう広げていくのか。

【知事】先進地の実際の取り組みを見てもいい、生の声やアドバイスを直接聞いてもらうことが効果的だと考えている。

(3) 住民と行政が一体となった取り組みとすることについて伺う。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

【知事】県、市町村共に他部署の職員も交えた対策チームの編成などを検討する。意思疎通を図り、一体となった支援になるよう職員に意識付けしていく。

会派県外調査・岩手県

価値を生む地産地消

3月23日から25日にかけて、新型コロナウイルス感染症を心配しながら岩手県に会派調査に伺いました。

初日に、紫波町の「オガール紫波(株)」へ。10年間塩漬けにされていた町有地を公民連携で開発し、年間80万人が訪れる人気スポットに生まれ変わったオガールプロジェクト。中核施設のオガールプラザには、図書館、子育て支援センター、カフェ、居酒屋、産直市場、医院、学習塾が入っています。概ね県内事業者で、建築資材は県産材、地元工務店の施工、というまさに地産地消の価値を生み出しています。

隣接して町役場、県フットボールセンター、オガールベースがあり、オガールベースにはホテル、バレーボール専用体育館、コンビニなどが入っています。

さてこのような地産地消をコンセプトとするコンパクトシティを構築した中心人物は町出身の岡崎正信氏で、東洋大学で公民連携を学び、民間企業で勤務された後、地域振興公団で

就任されてきました。スタートに当たって、東洋大学と協定を結び、町長の決断で公民連携のプロジェクトが始まる。岡崎氏と共に働く町役場の何人かを東洋大学の夜間コースで学ばせると共に、役場内に縦割り排した「公民連携室」を立ち上げました。

民間と行政が一体となった街づくりは補助金頼みではなく、東北銀行の融資を受けて事業を進めていることも有名です。県外の人材をアドバイザーや研究会の委員に活用し、融資を引き出しているのです。

第三セクターや公民連携方式は、よく見聞きしますが、これまでの成功事例はないのではないかと不思議、だからこそ視察も絶えないのでしょうか。

その成功には、藤原町長や岡崎氏といった「人材」の存在がとても大きいと思います。どんな成功事例にも、そこには「人」の存在がある、と改めて思いました。



民主県民クラブで要望書を提出

知事にコロナ対策を提言

新型コロナウイルス対策に 翻弄された数か月

今年、中国武漢で発生したとされる新型コロナウイルス感染症の世界中の蔓延で幕を開けました。日本では年明け早々豪華客船ダイヤモンドプリンセス号内での新型コロナウイルス感染症が確認されました。

3月に入って日本各地で感染が広がり、重症化して亡くなる方も相次いだことから、政府は3月2日から小中高の一時休業を要請しました。島根県でも、4月に入って早々、松江市で初の感染者がでて、クラスターが発生しました。



知事に要望書を渡す

民主県民クラブでは、その声を知事に届けなければ、という思いで4月7日、11日と2度に渡って緊急提言を行いました。

また、4月30日には県議会超党派議員の仲間とともに、副知事に対して

4月7日の提言

経済、雇用者対策

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に関する融資制度は、国から民間金融機関も含め無利子・無担保制度を実施する方針が示された。県としても中小企業制度融資を無利子・無担保にすること

(2) 県税等の免除・軽減措置を講ずること

(3) 非正規雇用の労働者及び中小・小規模企業の事業主を対象としたワンストップ相談窓口を設けること

感染症発生時の検査、医療対策

(1) 感染者の増加を想定した検査体制のさらなる充実、感染症対応病床の増床、人工呼吸器の追加配備を図ること

(2) 感染爆発を想定し、協力病院を増やすことや軽症の患者等のためにホテルの借り上げなどの対応を検討すること

(3) 感染者が発生した場合の病院や施設内の消毒費用について県の負担を検討すること

(4) 感染が発生した場合に



も対策の早期実施の要望書を提出しました。

以下その内容です。

各福祉施設に関する対策

(1) 高齢者施設、障がい者施設、保育所、児童養護施設等において、県内感染者の発生、施設内での発生、利用者家族の発症など想定されるケースごとに対応マニュアルを作成、配布すること

(2) 市町村と協議し、ケータリングサービスの利用等も視野に入れ、デイサービス、通所リハビリなどの休業による食事の確保を検討すること

(3) 介護に関する様々な問題に関し、市町村と協議し在宅系サービスの確保を支援すること

小中学校に関する対策

(1) 小学校の休校時の子ども居場所について、市町村と協議の場を持ち、例えば小学校と放課後児童クラブとの協力体制を構築すること

(2) 大規模小中学校の修学旅行の延期や生徒の検診、進路説明会等各種学校行事に係る様々な問題に速やかに対応できるように、市

町村教育委員会と対処について協議を進めること

(3) 休校措置をとった小中学校の再開に当たっては心身の不調に注意し、丁寧な配慮がなされるよう、併せて未習分の学習に関する不安への配慮等を市町村教育委員会と協議すること

(4) 高校の寮における感染予防対策を徹底すること

(5) 県立学校の新学期の開始時期については一律に決めるのではなく、各学校の実情により柔軟に変

業務継続対策（県市町村、警察）

(1) 公的機関においては業務継続を視野に入れた勤務体制をとること

(2) 公的機関の職員の感染防止のため、テレワークやウェブ会議を推進すること

(3) 県外生がゴールデンウィーク中も島根県で過ごせるよう寮は閉鎖しないこと

(4) TVや新聞広告、「島根創生」等のSNS発信を利用して、知事から「県外に行くことの自粛要請、個人としてできる予防策等」のメッセージを強く発信すること

4月11日の提言

(1) HP、SNSを使った発信についてスピード感を持って更新すること。

また、必要な情報等に直ぐにアクセスできるように工夫すること。

(2) 松江市と連携し、松江市内の小中学校の休校を迅速に判断すること。

松江市内の県立学校についても迅速に休校の判

こと

予算の確保

(1) 中止されたイベントの予算の流用、各種基金の利用、不要不急の事業中止などあらゆる手段で予算確保に努めること

(2) 場合によっては県債の発行も考えること

その他

(1) 在宅ワーク、学校の休校で急増していると報道されているDVや虐待の防止・発生時の対応のため、関係機関と連携し対策を講ずること

(2) 島根県で感染者が発生していないため、県外から観光客が多く訪れている。居住地の要請に従うことや感染防止策を徹底すること等のメッセージを発信すること

(3) 観光施設、宿泊施設の従業員に対して感染予防策を徹底すること

(4) TVや新聞広告、「島根創生」等のSNS発信を利用して、知事から「県外に行くことの自粛要請、個人としてできる予防策等」のメッセージを強く発信すること

4月30日の提言

副知事に対する要望

(1) PCR検査体制を充実し、濃厚接触者だけでなく、より多くの人が検査を受けられる積極的な体制づくりと医師、県民への周知の徹底

(2) 軽症者や無症状者が宿泊施設で療養できる体制づくり

(3) 子育て、介護中の感染者の家族、ひとり親家庭DVや虐待等の問題を抱える困難に直面する子どもへのケア体制づくり

(4) 院内感染対策の防止と医療機関、福祉施設等のマスクの需要への見通しや流通の確保

(7) オンライン授業やTVを利用しての休校中の家

今後の課題も

提言や要望の中には、実現したものも多くありますが、まだ対応が急がれる課題も残っています。

また感染症は5月半ばに一旦収束したかに見えたが、6月以降の勢いを盛り返しつつあります。島根県も大型クラスターが発生し、予断を許しません。今後も一人一人の感染予防の取り組みを続けましょう。

また、今心配するのは感染者に対する誹謗中傷です。引越越しを余儀なくされたとか学校を退学

点でしない方向性となっている。県として何らかの補償を考えること。

庭学習支援の充実

(8) 県外からの転入生等への待機期間等、統一したルール作り

(9) 不利益が生じないよう国へ要望した上で水産高校の練習生実習の中止

(10) 中小企業への事業継続、コロナ対策、業務継続計画策定支援

(11) テイクアウト、デリバリー店舗応援のための広報

(12) 迅速・正確で分かりやすい情報発信

(13) 大型連休中の帰省と観光の自粛要請

(14) 県民のための総合相談窓口の設置

(15) 公営住宅の家賃減免

(16) 水害など災害発生時の避難所の体制整備

した、という話も耳にします。先日のクラスターも学校への非難が相次いでいるようです。ですが通常のインフルエンザと同じように、コロナウイルスもどんなに気を付けていても誰もが罹りうるものです。「自分が罹った」と考えてください。罹った人を非難するのではなく、ほかの病気と同じように「お大事に」「早く良くなりますように」という気持ちを待ってくださるようお願いいたします。

先進県・鳥取に学ぶ

鳥取県議会「会派民主」 鳥根県議会「民主県民クラブ」 合同研修会・鳥取

令和2年2月4、5日に「合同研修会」を実施しました。今回で12回目になるでしょうか。当時鳥根県「民主県民クラブ」は6人、鳥取「絆」は4人だったと思いますが、山陰両県力を合わせて、お互いの良いところを取り入れていこうという思いで始まった研修会です。お隣同士の県でも知らないことは多くあり、また自分の県であっても初めて知ることもある研修会です。

さて、今回は鳥取県での研修会でした。発達障がい児への支援体制が鳥根県より進んでいると聞いていたので、1日目は「鳥取療育園」「鳥取こども園」を見学させていただきました。その後県庁で県の支援制度について聞きました。2日目は、両県共通の課題である「子育て支援」「人口減少対策」「女性活躍推進について」お聞きしました。鳥根県と比較して、鳥取県が進んでいる、あるいは鳥根県も取り入れたほうがいいと思ったのは「発達障がい児支援施策」と「女性活躍推進支援」でした。

進んでいる発達障がい支援

鳥取県の「発達障がい児及び医療的ケア児支援」の体制は、鳥取中央病院に隣接して脳神経小児科医師と整形外科医師が診療する県立鳥取療育園、肢体不自由児等が利用する医療型児童発達支援センター、発達障がい児が利用する児童発達支援事業所等が配置され、肢体・発達障がい児を「一か所」で療育支援につなげられるようになっています。

また全県で行われる、発達障がい児の支援では、ペアレントトレーニング等親への支援、市町村や保育園放課後デイや放課後児童クラブ職員への研修や支援診療協力医研修による病診連携など親や発達障がい者を持つ子ども達が保育園、学校、地域で生活するための

手厚い支援が構築され、国民の正しい理解促進のためのハンドブックやDVD、啓発イベントも積極的に行われています。また医療的ケア児の支援では、重症心身障がい児の87%が在宅で生活しており、在宅生活の支援を望む声が多いことから総合支援法などの対象とならない「在宅支援事業」を県単独事業として実施されています。



事業内容は、家庭外で活動する際の看護師派遣、入院時の付き添い支援、受け入れ事業所が基準以上に看護師を配置する場合の経費補助、入所者が地域生活に移行する場合の支援、保育所等への指導助言等で、これらの支援は「地域療育支援事業」として、東部中部

であり、鳥取県の「鳥取療育園」のように全体の司令塔となるところがありません。

また発達障がい児の相談

1歩も2歩も先の女性活躍推進

女性活躍推進については、なんといっても早い時期から「女性活躍推進課」が設置されていたのが一歩も二歩も進んでいる要因だと思っています。鳥根県も、今年度やつと政策企画局に「女性活躍推進課」が設置されましたので、今後追いつき追い越して行けるのか、期待したいところです。

とは言っても取っている施策にそれほど違いがあるわけではないのですが、一番の違いは県庁の管理職、特に部長職に早くから女性を配置していることです。

鳥根県では一時広報部長と会計管理者が女性でしたが、残念ながら2年でまたも「ゼロ」に戻ってしまいました。そして、うひとつ大きな違いは「鳥取県女性活躍推進計画」に目標をしっかりと

「2020年までの企業における管理的地位に占める女性割合を30%（小企業は25%）」と定め、施策の方向性をその目標にそって構築、展開されていることです。鳥取県のこの目標を聞いたとき、折しも東京での研修で聞いた話と呼応するものがありました。その内容は国連の持続可能な開発目標SDGsを取り組みの中心としてとらえていること、その中の「ジェンダー平等の実現」をすべての目標の達成に必要な横断的価値として、実現のために企業のトップ等意思決定機関の女性割合を30%以上にすることを「30%クラブ」キャンペーンが取り組まれていることです。日本は世界14カ国目で上場企業19名の社長が参加されていると聞きました。

やペアレントトレーニングは、東西の発達障がい者支援センターがカバーしていますが、支援者の人数が少ない為、市町村との連携が欠かせず、県内に濃淡が生まれるのは否めません。医療的ケア児の療育や相談支援については東部・西部の医療福祉センターが行っていますが、中部の支援が弱い

いようです。制度の「形」は整えられています。昭和40年当初からの歴史を持つ県立鳥取療育園を中心とし、障害を持つすべての子どもを東・中・西部の県立療育センター、すなわち県が責任を持って支援する体制と比べ、鳥根県の体制づくりは道半ばのように思います。



園」では、中央児童相談所勤務時代にお会いした藤野先生が益々理想に燃えて子ども達の為に頑張っておられる姿を拝見できたことも嬉しく、また、この児童養護施設が子ども達を「家族」として支えていることに大きな意義があると思います。ここで育った子ども達がコロナ大学を卒業したり、レバノン大使館で働いている話を聞き、子ども達はどうな境遇にあっても愛してくれる大人と出会えればしっかりと育っていくという事実を再認識し感動しました。



三瓶自然館サヒメルと小豆原埋没林公園

7月23日、三瓶自然館サヒメルのリニューアルオープンイベントに、建設環境委員長として行ってきました。夏休み前ということもあってか「鳥根にもいた！失われたソウの世界」という展示をやっています。実は初めて行ったのですが、天文台や「ふしぎの森で遊ぼう！」というコーナーもあって、子どもを連れて遊びに行くのにとっても良い施設だなと思いました。

その後、小豆原埋没林公園に移動し、新しくできたガイダンス棟と公園の愛称のお披露目がありました。県知事賞は出雲市の鬼村吉郎さんの「さんべ縄文の森」です。残念ながら、県内ではあまり知っていない人も少ないので、もっとPRしたいです。鳥根県内の小中学生にも訪れてほしい場所です。

